



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 医療人としての能力(コンピテンシー) 修得に向けて 歯学部長 宮崎 隆

本学は他大学に先駆けて、医学部を中心に20年ほど前から教育改革を鋭意進めてきました。その中で、大学全体の教育目標として、「至誠一貫」の精神のもとに真心と情熱をもって医療の発展と人類の健康増進と福祉に寄与する人材の育成を掲げてきました。



歯学部においても、大学の教育目標の下で、医療の仲間として超高齢社会の国民の長寿健康に寄与する歯科医師の育成を目標にしてきました。近年文科省は大学教育全般の中で、それぞれの分野で学部卒業時の学士力を担保するための教育改革を主導しています。その中で、教育過程を修了したときに、アウトカムとしてどのような能力が身についているかを明確にする方針が示されています。私たちの医学系領域では、医療人としての臨床能力のことで、医学教育ではこれをコンピテンシーとして明記するようになりました。このたび、本学においても、新年度に合わせて本学の卒業生が卒業時に身につけている医療人としての能力をコンピテンシーとして条文化しました。これは項目で、「プロフェッショナリズム」「コミュニケーション」「チーム医療」「専門的実践能力」「社会的貢献」「自己研鑽」「アイデンティティー」の7つから構成されています。歯学部では以前から歯学教育のゴールとして独自にコンピテンシーを制定し、この評価としてiOSCAを実施してきましたが、大学全体のコンピテンシーに合わせて改定する予定です。

いずれにせよ、歯学部の学生は専門の臨床に関わる知識、技能、態度の修得だけでなく、医療人の一員であるという大原則に則って医療人としての能力を身につけなければいけません。とりわけ「チーム医療」は本学の大きな特徴です。全寮制をベースにした初年次教育の中で学部連携教育が開始され、各学部に分かれてからも、3年生と4年生は学部連携PBLで学習し、さらに5年生は学部連携病棟実習に従事します。この際に各附属病院では歯科と口腔ケアセンターが中心になって院内におけるチーム医療を実践していることを先月号の巻頭言でも紹介しました。

患者と触れる臨床実習は臨床教育の仕上げであり、医療人としての能力を修得する上で重要な実習になります。文科省では各大学において診療参加型臨床実習を充実させるように指導しています。本学においては、4月からの5年次の臨床実習においても、これまで初年次のPBLや実習から継続して使用してきた電子ポートフォリオを導入して、歯科臨床の基本的技能だけでなく、医療人としての共通のコンピテンシーが達成できるように教育を進めてまいります。これは入学時から継続して、学生が自ら能動的に学習して成長し、最終的に生涯自己研鑽できる資質を身につけるものです。電子ポートフォリオのフィードバックに関係する全職員が一丸となって、学生教育の充実にご支援をお願いします。

## 歯科医師国家試験が実施されました

D6チューター会議 美島 健二

第107回歯科医師国家試験が全国8会場で2月1日、2日の2日間実施されました。

本学の学生は東京都の試験会場である東京工科大学蒲田キャンパスで受験し、同会場には本学をはじめ9大学の学生が受験しておりました。各大学とも関係者が応援に駆け付けており、会場前は激励ムード一色となっておりました。



当日は、少し肌寒かったです。天候にはめぐまれ、宮崎学部長をはじめ多数の教員や卒業生が応援に駆けつけ、昭和大学の旗印のもと受験生への激励がおこなわれました。

今回は、合格鉛筆に加え、佐藤裕二教授の似顔絵入りチョコレートが配られて、多くの学生の緊張がほぐれたことと思われます。本年度は、4年に一度の国家試験出題基準の改訂年度にあたり、「歯科医学各論」として「高齢者の歯科臨床」が新しい項目として加えられこともあり、出題傾向がこれまでとはやや異な

っていたと感じられました。

なお、合格発表は、3月18日(火曜日)午後2時から行われます。



## CBT が実施されました

歯科放射線医学部門 荒木 和之

1月28日(火曜日)に、平成25年度共用試験 CBT が実施されました。インフルエンザが流行している時期であり心配していましたが、受験を希望していた4年生106名は欠席もなく全員無事受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室を試験会場とし、学生は午前8時30分に集合し、全320問の問題に取り組みました。試験は6ブロックに分かれており、各ブロック60分で解答をおこない、最後にアンケートをして解散となりました。

学生は終始緊張の面持ちで試験に臨んでいましたが、CBT 事前説明会や CBT 体験テストの経験もあって、大きな混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。運営は、北川先生(実施責任者)、中村先生(副実施責任者)、坂井先生(サイトマネージャー)、学務の係員と私が担当しました。試験監督は午前・午後各3名のべ6名の体制でおこない、基礎系の先生方をお願い致しました。

当日は共用試験実施機構から明海大学の藤澤教授、岡山大学の松本教授がモニター委員として派遣され、実施状況を監視されました。試験終了後の反省会では、受験態度や実施状況など、全体的に良好でしたとのコメントをいただきました。

CBT 実施にあたりご協力いただいた先生方・事務方の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。



## 大学院歯学研究科入試が実施されました

歯学研究科運営委員長 佐藤 裕二

2月15日に大雪で大混乱のなか、大学院歯学研究科春季Ⅱ期入学試験が行われ、19日には合格発表がありました。一般選抜16名(うち、昭和大学出身11名)、社会人特別選抜2名の合計18名でした。12月7日に行われた春季Ⅰ期入試の13名(一般12名、社会人1名)と合わせて31名となりました。ちなみに過去5年間の推移は29, 29, 22, 41, 32名でした。

4月からは、研究者マインドを持って、研究、診療、教育に頑張ってくれることを期待しています。なお、外国語試験も行われ、3名の受験がありました。次回の

大学院入試(秋季)と語学試験は8月23日の予定です。

## 新機材共同開発のための打合せを行いました

歯科理工学部門 片岡 有

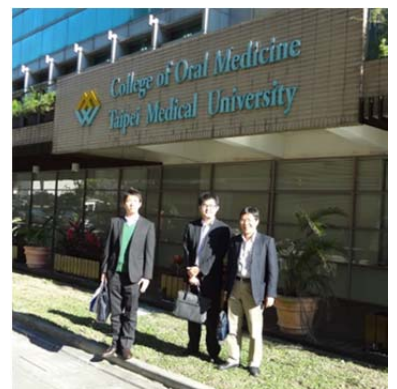
歯科理工学部門では、昭和大学の産学共同研究プロジェクトの一環として、歯科医療分野で応用できる新規紫外線ランプの開発に取り組んでいます。本年1月に、宮崎歯学部長と大学院生の滝口裕一先生と共に台湾に足を運び、ミニブタを用いた動物実験を行うことを姉妹校の台北医科大学と交渉してきました。

紫外線ランプは水銀を利用するものが一般的であり、これは昨年10月に制定された水俣条約など環境に関する条約で使用が制限されつつあります。既に昨年4月から日本の会社と産学共同研究の締結をし、波長の短い紫外線ランプ(エキシマランプ)の臨床応用に向けた予備実験を終了しています。さらに、台湾の会社とも効率的に光を照射できる機器の設計について打ち合わせを行い、機器の組み立てを台湾でも行いアジア市場でのニーズに応えようという方向性が決まりました。

2泊3日という短い滞在でしたが、現地での話し合いは大変迅速で、台湾の研究者と技術者の良いものはすぐに形にするという意気込みに圧倒されました。

台北の中心地は、若者で溢れ、真新しい高層ビルが立ち並び活気に満ちていました。郊外には、歴史的遺産の故宮博物院の他、日本のつくば市のような研究学園都市が整備され、国をあげて研究開発に取り組んでいました。

日本に戻り、予備実験を基に研究計画を精査し、次回の打ち合わせまでにデータを蓄積していくつもりです。学内の発表会においても、機会を見つけて紹介したいと思います。



## 海外留学生紹介

歯科補綴学部門 Vita Mulya P

I am Vita Mulya P, Dept. of Prosthodontics University of Padjadjaran (Unpad) Bandung-Indonesia

I came first time to Japan on June to visit my husband who is studying a doctoral program in Chiba University.

At that time I met Professor Kazuyoshi Baba in Showa University and he gave me an opportunity to study here for 6 months started from 1st October. I am enjoying living in Japan, although I have to commute everyday from my apartment in Inage-Chiba to Showa dental hospital in Senzoku. I cannot speak nihongo, however I have a lot of nice friends.

I learn a lot of things including clinical, research experiences, and how to use chopsticks. I saw a snow for the first time here and I hope I can see Sakura before I return to my country.

## 海外留学生紹介

歯科放射線医学部門 Deepu Krishna S

I am Dr Deepu Krishna S, a Research scholar in the dept. of Maxillofacial and Dental Radiology, Showa University Dental Hospital Tokyo, Japan. I have completed my Masters in Dental Surgery in Oral Medicine and Radiology from Rajiv Gandhi University of Health Sciences, Bangalore, India. I am very grateful to Professor Tsukasa Sano and Professor Tomohiro Okano for giving me this great opportunity to work with and experience great Japanese hospitality.



Working in this department under the able guidance Professor Tsukasa Sano and his colleagues has enriched me further. The experience has taught me how to pursue research as part of routine learning rather than as a separate entity. Research helps to widen imagination and discover newer methods to do work in a simplified manner. All of the teachers have been very kind, caring and patient with me and have sat down with me and explained to me whenever I have approached them with queries. I also got firsthand experience and insight to the latest imaging technology and teaching methods used for training tomorrow's doctors.

To conclude, I am fortunate to experience this lifetime opportunity of academics and cultural exchange which will forever remain etched in my memory.

## 歯科医学会会長賞を受賞して

名誉教授 久光 久

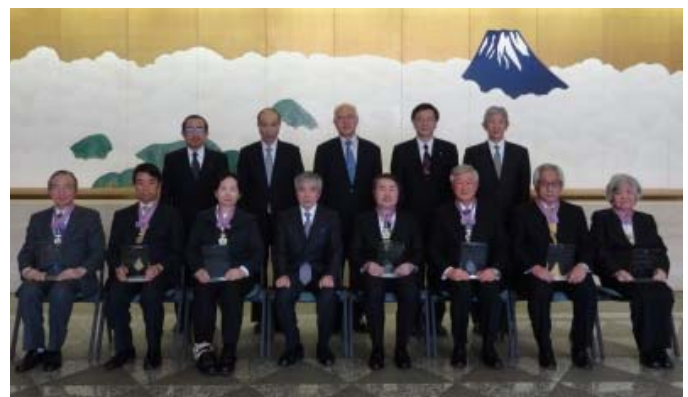
名誉教授 岡野 友宏

このたび、昭和大学歯学部からのご推薦を頂き、日本歯科医学会最高の顕彰である日本歯科医学会会長賞(教育部門)を受賞することが出来ました。このような栄誉ある賞を授与されるとは夢にも思っておりませんでしたので身に余る光栄と感じております。ご推薦とご支援を賜りました関係各位に深く感謝申し上げます。

日本歯科審美学会において歯科衛生士を対象としたホワイトニングコーディネーター制度を立ち上げたこと、会長時に同制度の普及活動に尽力したことが高く評価されたようです。教育部門では東京医科歯科大学副学長の須田英明先生、日本大学学長の大塚吉兵衛先生、そして私の3名が受賞しました。

2月24日の授賞式で、研究部門で受賞された岡野先生とともに昭和大学から2名受賞出来たことはとても嬉しい限りです。このたびは本当にありがとうございました。(名誉教授 久光 久)

私はこのたび栄誉ある日本歯科医学会会長賞を頂きました。日本歯科放射線学会をはじめ、多くの方々のご支援のたまものです。研究部門での受賞で、画像解析や線量低減・防護等、これまで積み重ねた実績が評価されたのでしょうか。この部門では岡山大学の滝川正春教授、日本歯科大学の佐藤田鶴子教授、それに私の3名が受賞しました。今でも頭に描くテーマはありますので、今後も歯科病院の放射線外来に顔を出して、若い先生方と話のできる環境の中で、仕事を継続していきたいと考えます。よろしく願いいたします。(名誉教授 岡野 友宏)



## 昭和医学・医療振興財団の医学研究助成金授賞式が執り行われました

歯学部長 宮崎 隆

去る1月17日(金)に旗の台校舎1号館5階会議室において、公益財団法人 昭和大学医学・医療振興財団の平成25年度医学研究助成金授賞式が執り行われました。この財団法人は昭和46年に設立された昭和大学医学振興財団を母体にしていますが、平成25年4月に公益財団法人に移行し、昭和大学のみならず広く我が国における医学、生命科学に関する領域において優れた教育や医療の実践者に対して総合的な学術支援を行うこととなりました。今回はその最初の助成事業となりましたが、全国から61件の応募がありました。

授賞式では財団の安原 一理事長の挨拶に引き続き、「医療人育成」ならびに「医療の実践」に関する審査報告(木内裕二選考委員長)と、「医学研究」に関する審査報告(山元俊憲選考委員長)があり、10名の方が受賞され、安原理事長から助成金が贈呈されました。



その中で、歯学部同窓生の千木良あき子先生(5期生、宮城県開業)が、「地域多職種連携で行う摂食・嚥下リハビリテーションおよび歯科的支援に関する調査研究」で受賞しました。千木良先生は卒業後、金子教授ならびに向井教授のもとで我が国の摂食・嚥下リハビリテーションの草分け的な研究に従事し、開業後は大変な苦勞をしながら地域で多職種連携を長年実践してきました。今回の受賞は、全国の歯学部同窓生にとっても励みになります。今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。



## 選抜 I 期入試が実施されました

入試常任委員 井上 美津子

平成26年度の歯学部選抜 I 期、センター I 期の入学試験が、1月30日(木)に東京会場(五反田 TOC ビル)、大阪会場(新大阪丸ビル別館)、福岡会場(南近代ビル)の3会場で、薬学部、保健医療学部の入学試験と同時に実施されました。

歯学部の志願者は地方会場を合わせて、選抜 I 期(50名募集)が490名(昨年比44%増)、センター I 期(10名募集)が187名(昨年比21%増)でした。各会場では、当該学部の教員や事務方ばかりでなく、各学部の OB の先生方にもご協力をいただき、無事に終了することができました。合格発表は、選抜 I 期が2月3日(月)、センター I 期が2月6日(木)に行われました。

この後、平成26年2月22日(土)には選抜 II 期、センター II 期の入学試験が予定されております。教職員の皆様には、今後ともよろしくご協力の程、お願い申し上げます。

## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 3月6日(木) : D4 OSCE 追・再試
- 3月3日(月)~3月14日(金) : D2オリエンテーション
- 3月14日(金) : 大学院歯学研究科修了式
- 3月17日(月) : 卒業式
- 3月18日(火) : D2授業開始  
: 第107回歯科医師国家試験合格発表
- 3月31日(月) : D5白衣授与式
- 4月1日(火) : D2・3・5・6健康診断
- 4月2日(水) : D4・健康診断
- 4月5日(木) : 大学院入学式
- 4月7日(金) : 入学式および入寮式

## 編集後記

口腔病理学部門 田中 準一

平成26年2月は立春とは名ばかりの寒さのなかで、入学試験、国家試験をはじめ多くの試験が実施されました。業務に携わっていただいた先生方は体調を崩さないようお気を付け下さい。

今回初めて編集を担当させていただきましたが、今月は歯科医学会会長賞、昭和医学・医療振興財団の医学研究助成金授賞などの明るい話題が多く、歯学部同窓生として大変勇気づけられる内容でした。

最後になりましたが、ご多忙中にも関わらず原稿を執筆してくださいました先生方に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。